

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について
(予報第4号(8月))

標記について、次のとおり発表します。

《8月の病虫害発生予報》

<作物>

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲				いもち病	
			縞葉枯病(ヒメビウンカ)		
				トビイロウンカ	
			斑点米カメムシ		
ジャンボタニシ(発生に注意)					

<果樹類>

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう				べと病	
			褐斑病		
			晩腐病		
もも				せん孔細菌病	
みかん			黒点病		
		ミカンハダニ			
バラ科 果樹 果樹類 全般	クビアカツヤカミキリ(発生に注意)				
				果樹カメムシ類	

<野菜類>

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす		すすかび病			
			うどんこ病		
			灰色かび病		
			アザミウマ類		

<花き類>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
きく			黒斑病・褐斑病			
			白さび病			
		アザミウマ類				

<その他>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
花き類全般 野菜類				アブラムシ類		
				ハダニ類		
				ハスモンヨトウ		
				シロイチモジヨトウ		
				オオタバコガ		

《今月のトピックス》

■今後の発生に注意が必要な病害虫

【水稻】 いもち病、トビイロウンカ

【バラ科果樹】 クビアカツヤカミキリ

【果樹類全般】 果樹カメムシ類

【野菜類・花き類】 ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ

《(参考)8月の気象予報》(大阪管区气象台7月23日発表)

気温	低い (40%)	平年並 (30%)	高い (30%)
降水量	少ない (20%)	平年並 (30%)	多い (50%)
日照時間	少ない (40%)	平年並 (40%)	多い (20%)

(詳細は、一覧表参照)

A 作物

1 水稲

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
いもち病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、ほ場によっては平年より多かった。 ・8月の降水量は、平年より多いと予想されている。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低温、日照不足の時に発生しやすい。 ・近年、他府県において QoI 剤（アミスター、嵐、オリブライト、イモチエース等）耐性菌の発生が報告されている。
縞葉枯病 (ヒメトビウンカ)	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒメトビウンカの防除薬剤を施用する。 ・窒素質肥料の過用を避ける。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本病はヒメトビウンカによって媒介されるウイルス病である。
トビイロウンカ	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年と同様に確認されなかった。 ・6月～7月の予察灯への飛来虫数は平年よりやや多かった。 ・JPP ネットのウンカ飛来予測システムにおいて、6月から7月にかけて断続的にトビイロウンカが大阪府に飛来したと推定されている。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急激に増加する恐れがあるので、今後のメールサービス等の病害虫発生予察情報に注意し、発生初期の防除を徹底する。
斑点米カメムシ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月の予察灯への飛来虫数は平年並であった。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出穂2週間前までに、ほ場周辺のけい畔の除草を行う。
ジャンボタニシ (スクミリンゴガイ)	発生に注意	<p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、生息地域が拡大している。 ・田植え後約20日経過後は、新たな食害被害は出にくいですが、貝の密度を低くするために、ピンク色の卵塊を発見した場合は水中に掻き落とす。

B 果樹

1 ぶどう

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
べと病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none">・巡回調査では、発生が平年よりやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none">・一度発生すると急速に被害拡大することが多いため、ほ場の見回りをこまめに行う。・発生園地では、使用時期に注意し、薬剤防除を行う。・発病した葉、果房等は除去し、園外に持ち出すなどして処分する。・QoI 剤は耐性菌が生じやすいので、1 作 1 回程度の使用に努める。・発生園地では、収穫後にも IC ボルドーなどで防除を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none">・露地栽培で発生が多い。
褐斑病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none">・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none">・発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。
晩腐病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none">・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none">・昨年度発生があったほ場では予防散布に努める。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none">・新梢伸長期～収穫期に雨が多いと多発する。露地デラウェアに多い。

2 もも

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
せん孔細菌病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none">・巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none">・被害果実や枝病斑は、感染源となるためほ場外へ持ち出し、適切に処分する。・発生の多かったほ場では、9 月～10 月に、IC ボルドーなどを散布する。

3 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
黒点病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年と同様に確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤を使用する場合は、皮膚のかぶれに注意する。また、両剤とも、かんきつ(みかんを除く)では収穫 90 日前までなので注意する。
ミカンハダニ	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・8月の気温は、平年よりやや低いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・殺ダニ剤に対する抵抗性の発達が懸念されるため、同一系統薬剤の連用を避ける。

4 バラ科果樹

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
クビアカツヤカミキリ	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼虫は、幹や枝から中華麺～うどん状のフラス(木くず等の混合物)を出す。 ・フラスが見られた樹は、ネットを巻き付けるなど成虫の拡散を防ぐ対策をとる。ネットは高さ2m程度まで2重にしっかりと巻く。 ・6月～8月が成虫の発生時期であるので、ほ場を見回って、見つけ次第捕殺する。成虫に対しては、モスピラン顆粒水溶剤などを散布する。

5 果樹全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
果樹カメムシ類	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップによる誘殺虫数は、地点によっては平年より多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園地により飛来量は大きく異なる可能性があるため、園内を見回って発生及び被害状況を確認し、発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を実施する。

C 野菜類

1 なす

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
すすかび病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年より発生は少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。(QoI 剤 (アミスター、ストロビー、シグナム)、SDHI 剤 (アフエット、カンタス、シグナム)、DMI 剤 (トリフミン、ルビゲン、スコア) は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。)
うどんこ病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・8月の日照時間はやや少ないと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・密植を避け、過繁茂にならないよう摘心・摘葉をこまめに行う。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うどんこ病は日照不足、他の病気と比べて乾燥条件下で多発する。
灰色かび病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果実に付着した花卉からの感染が多いので花卉の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。(QoI 剤 (シグナム)、SDHI 剤 (アフエット、カンタス、シグナム) は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。)
アザミウマ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期防除を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ハウス栽培では、開口部を被覆して成虫の侵入を防止する。 ・露地栽培では、天敵昆虫の温存を図るため、ソルゴー囲い込み栽培などを行う。 ・被害葉や残さは、ほ場外に持ち出し、処分する。 ・ほ場周辺の除草に努める。 ・ミナミキイロアザミウマは、感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難。ハウス栽培で開口部の被覆に使用する場合、0.8mm 目合の赤色ネットは 0.4mm 目合の白色ネットと同等の効果がある。

D 花き きく

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
黒斑病・褐斑病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は少なかった。 ・8月の気温はやや低く、降水量は多いと予報されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発病の多いほ場では、密植を避け風通しを良くする。 ・発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。
白さび病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は少なかった。 ・8月の気温はやや低く、降水量は多いと予報されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発病の多いほ場では、密植を避け風通しを良くする。 ・発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。
アザミウマ類	少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・膜割れ(蕾から着色した花卉が見える前)前後の防除を徹底する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花卉に被害を及ぼすミカンキイロアザミウマ等の他に、葉にハダニ類に似た被害を及ぼすクロゲハナアザミウマ等があるため、被害状況に応じ防除を行う。

E 野菜類・花き類全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
アブラムシ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・黄色水盤による誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場周辺の除草に努める。 ・施設栽培では、開口部をネットで被覆し、成虫の飛来を防止する。 ・ウイルス病害が発病した株は、蔓延防止のため、抜き取りまたは株元から切り取って、ほ場外に持ち出し処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アブラムシ類が媒介するウイルスには、キュウリモザイクウイルス(CMV)などがある。
ハダニ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少なかった。 ・8月の気温は平年よりやや低いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期の防除を徹底する。 ・殺ダニ剤に対する抵抗性の発達が懸念されるため、同一系統薬剤の連用を避ける。 ・卵～成虫の各ステージに応じた薬剤を選定する。

ハスモンヨトウ	並～ やや多い	[予報の根拠] ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・フェロモントラップによる誘殺虫数は平年並～やや多かった。 [注意すべき事項] ・発生初期(若齢幼虫の集団)に防除を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
シロイチモジヨトウ	並～ やや多い	[予報の根拠] ・フェロモントラップによる誘殺虫数は平年並み～やや多かった。 [注意すべき事項] ・発生初期(若齢幼虫の集団)に防除を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
オオタバコガ	並	[予報の根拠] ・フェロモントラップによる誘殺虫数は平年並であった。 [注意すべき事項] ・発生初期(若齢幼虫期・食入前)に防除を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ

(平成23年4月1日より大阪府病害虫防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/> 最新の防除指針を掲載しています。

●病害虫発生情報メールサービス

申込先：大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ
メールサービス担当

TEL：072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mailservicemousi.koni.html>

※年間約15件の病害虫情報を電子メールで送付します。(情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です)

●おおさかアグリメール

申込先：大阪府立環境農林水産総合研究所
企画部 企画グループ おおさかアグリメール受付担当

TEL：072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

※最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。(受信に要する通信費は自己負担です)

●Web版大阪府園芸植物病害虫図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病害虫」(大阪府植物防疫協会)

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

●「大阪府暑さ対策情報ポータルサイト」

<http://www.pref.osaka.lg.jp/chikyukankyo/jigyotoppage/atsusataisaku.html>

「暑さ指数情報発信サービス登録サイト」(環境省熱中症予防情報サイト内)

http://www.wbgt.env.go.jp/mail_service.php

※大阪府では、府民のみなさまに夏の暑さに備えていただくため、「大阪府暑さ対策情報ポータルサイト」を開設しています。「暑さ対策」の情報サービスのお知らせや暑さをしのぐ工夫や情報もごさいます。熱中症対策には是非ご活用ください。